

## 2011年度下半期 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員が、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として、また、オフィス業務や事業活動として取り組んでいる環境保全活動について、各社資料から、とりまとめた。

### 1. 東日本大震災への対応

#### 興和 東北コットンプロジェクト

2011年11月26日、仙台市荒浜で行われた東北コットンプロジェクトの秋のワタ見会に社員3人が参加し、農家、アパレル関係企業等約150人と共に、綿花の刈り取り、草取りを行った。また、東北大学原子核物理研究室が綿花、土壌、空気中の放射能濃度を計測し、検出限界に達していないことが確認された。

本プロジェクトでは、東日本大震災の津波被害で稲作等が困難となった農地の再生、農家の復興のため、農家とアパレル関係企業等が一体となって耐塩性の高い綿花の栽培を推進している。興和は協賛企業として、綿花から製品に至る履歴を登録管理し、製品の安全性担保の一端を担っている。参加した社員はタオルや衣類等を寄贈し喜ばれたが、復興はまだ十分ではないとの強い印象を持った。今後も継続的に活動は行われ、協力していく。

### 2. 環境マネジメント

#### ユアサ商事 事業所のエネルギー環境 マネジメント

2011年11月27日、東京都中央区総合環境講座の一環で、省エネルギーセンターの依頼により、本社で屋外学習等を行い、区内在住・

在勤の約20人が受講した。

同講座は2011年冬の節電と長期的省エネ・温暖化対策の課題と対策を学ぶために開催された。当日は本社別館の太陽光発電、デシカント空調、高効率照明等の創エネ・省エネ設備や非常用発電機等の見学の後、夏に実践した節電・省エネ対策、環境・省エネ事業等について説明し、参加者からは「勤務先での取り組みの参考としたい」等の感想があった。

#### 住友商事 環境セミナー「持続可能性への挑戦と地球サミット～『リオ+20』に向けて」

2011年12月19日、東京本社で、社外の専門家による説明会を開催し、東京本社およびテレビ中継により、本社・グループ会社の環境関連業務担当者を中心に国内9拠点から約100人が参加し、リオ+20の意義、グリーンエコノミー、企業の役割や可能性等について説明を受けた。参加者からは「環境問題への認識を新たにしたい」「事業活動に活かしたい」「原発をはじめ国内外の事象についてもっと真剣に考えたい」等の感想があった。

### 3. 環境問題への理解促進

#### 三菱商事 熱帯林再生国際シンポジウム

2011年10月24-25日、クアラルンプール

で、世界各国の森林研究者による熱帯林再生に向けた研究成果の発表や、最新技術の情報交換、CO<sub>2</sub>吸収や生物多様性の保全についての討議等が行われ、市民含め9カ国から約300人が参加した。

三菱商事はマレーシア農業大学と共にボルネオ島熱帯林再生実験事業を行っており、国際森林年2011年に当たり、マレーシアでの植樹が20年目となり、世界各地での植樹が100万本に達した記念に開催した。また、前日に開催した植樹祭には、クアラルンプール支店社員およびその家族約80人や同大学学生など約600人が参加し、0.6haに約6,000本の苗木を植樹した。参加者からは「植樹、シンポジウムを通じてこれらの活動が広がっていくことを期待したい」等の感想があった。実験林はブラジル、ケニアでも展開しており、今後とも継続的に取り組んでいく。2012年には新たにインドネシアでもスタートする。

### 三井物産 地球教室2011

2011年11月3日、朝日新聞の環境教育プロジェクト「地球教室」への協賛に伴う活動の一環で、三井物産の森・亀山山林（千葉県）で「森の課外授業」が行われ、小学校4-6年生の親子18組37人が自然観察や間伐等を行った。

本プロジェクトでは子供たちが環境について学び、自ら進んで地球のために行動していくことを目指して、森の課外授業、1日環境セミナー、出張授業、環境新聞コンテスト等も行っており、三井物産は国際森林年であった2011年を機に協賛している。11月に仙台、2012年1月に東京で出張授業を行い、実施校から、「環境問題と子供たちとの距離が近づいた」等の感想があった。

出張授業は森林・環境学習ウェブサイト「森のきょうしつ」で随時受け付けている。森の役割、人と自然のつながり、環境保全に配慮

した林業を通じた森の育成等について考える機会を提供する場として取り組んでいく。

### 伊藤忠商事 環境教室

2011年11月25日、東京本社で、青山小学校6年生28人を対象に環境教室を行った。

毎年、地域貢献の一環として受け入れている社会科校外授業で、最近では環境をテーマとしている。今回は、新たに加えた本社ビル屋上のソーラーパネルの見学の後、ボルネオ島での植林活動等について説明した。12月16日にはこれらを踏まえて環境問題発表会が開催され、社員約20人が出席した。参加した生徒たちは、間近に見ることが難しい発電設備に関心を示していた。

地元小学校の環境学習をはじめ、地域に役立つ取り組みを今後も強化していく。

### 岩谷産業「住みよい地球」全国小学生作文コンクール2011

2011年12月、本作文コンクールの最優秀賞、学校奨励賞の受賞各校を訪問し、表彰式を行った。同コンクールは、企業スローガンである「住みよい地球がイワタニの願いです」を踏まえ、「住みよい地球」をテーマに行っているもので、2011年は全国326校から2,541件と、学校数、作品数とも初年度を上回る応募があった。

また、表彰式に引き続き、「水素エネルギー教室」を開催し、子供たちは環境授業と燃料電池車の試乗会により、目に見える形で“水素エネルギー”を実感した。

## 4. 地域における環境保全活動

### (1) 主催

#### メタルワン 第11回メタルワン大阪支社環境ボランティア

2011年11月16日、社員・グループ会社社員97人が参加し、昼休みを利用し、大阪市

中之島周辺を清掃した。

本事業は、企業理念にうたわれる地球市民を具現化する活動と位置付けられ、社会・環境貢献活動を実現するものとして展開している。循環型社会構築への寄与、自然生態系の保全等の直接的効果、活動参加者、清掃活動を目にした人々への意識変革を通じて社会へ広げていくという間接的効果、また、美化を通じた地域社会貢献という副次的効果をもたらしたと考えており、今後も活動を拡大させていく。参加者からは「短時間ながらも気持ちの良い活動だった」「茂みから想像以上のビンや缶が出てきて驚いた」等の感想があった。

## (2) 協力

### 双日 街のおそうじ活動

毎月第2・4火曜日の朝、NPO法人グリーンバード赤坂チームの清掃活動に社員・グループ会社社員が継続的に参加しており、2011年度下半期計12回で社員22人が参加した。

社員一人ひとりが環境保全について考える機会として、また、社内、地域の交流の機会として2008年12月から参加しており、2012年3月までの参加者は延べ221人となった。

参加者からは「近隣企業の方々との清掃活動により人とのつながりも感じる」等の感想があり、おおむね好評である。

### 丸紅 奥多摩間伐体験ボランティア

2011年10月1日、東京都環境局との共同実施プログラム「東京グリーンシップ・アクション」の一環として、社員・グループ会社社員とその家族約30人が、青梅市上成木森林環境保全地域で間伐作業を行い、その後、地元ボランティア団体の協力により、山や川の生き物自然教室など自然に親しんだ。

同プログラムは、企業、NPO等と行政が



第11回メタルワン大阪支社環境ボランティア  
(メタルワン提供)

連携し、東京に残された山地の森林、里山、雑木林の整備と、都民の環境への関心を高めるために行われており、未整備で十分な日光が差し込まない暗い森を、多種多様な草木や生物が暮らせる明るい森に再生するため、2006年度から参加している。参加者からは「急斜面を登り、大木をのこぎりで切るのは大変だったが、作業後の爽快感、木の香に包まれた癒やしのひと時を味わった」等の感想があった。今後も、環境教育の一環として取り組んでいく。

### 豊田通商 大阪マラソン “クリーンUP” 作戦

2011年10月25日、大阪支店社員・グループ会社社員48人が参加し、御堂筋、大阪支社周辺を清掃した。2005年から大阪支店として参加し、2008年からは労働組合大阪支部とも協働しており今後も継続していく。参加者からは「朝早くから掃除を行い、きれいになり気持ちいい」「選手にきれいなコースで走ってもらえるのはうれしい」等の感想があった。

### 阪和興業 大阪マラソン “クリーンUP” 作戦

2011年10月26日、大阪本社社員40人が参



加し、御堂筋、大阪本社周辺を中心に延べ2kmを清掃し、一般ゴミ2.2kg、缶・ペットボトル0.6kgを回収した。

大阪本社は1998年から毎年、春秋2回、地域の清掃活動を行っており、新入社員の他毎年恒例の参加者も定着し、社員の環境保全への意識も着実に高まってきている。参加者からは「町がきれいになり気持ちがいい」「次回もぜひ参加したい」等の感想があった。

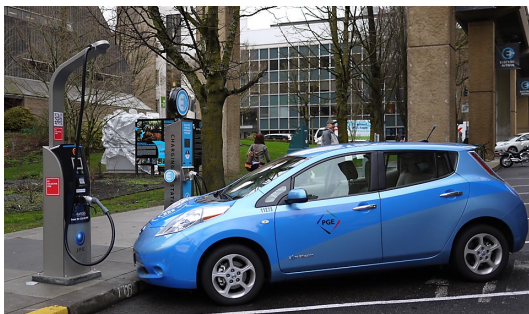
#### 大阪マラソン“クリーンUP”作戦

第1回大阪マラソン開催（10月30日）を前に、国内外から訪れる人々を清潔で美しい街で迎えるため、2011年10月22-28日、「大阪市一斉清掃“クリーンおおさか”」とタイアップし、市内の歩道、公園、駅前広場など公共スペースの清掃を行い、市民、地域事業者など12万人超が参加した。

#### 長瀬産業 隅田川護岸緑化活動

2011年11月5日、中央ぶらねっと（中央区社会貢献企業連絡会）の主催する緑化活動に、社員3人を含め加盟企業から約40人が参加し、隅田川沿いの花壇に植栽を行った。

同連絡会は、中央区を活動のフィールドとして、区内の企業等が加盟し、社会貢献の推進、地域との交流を実施しており、2009年度に加盟した。護岸の植樹は継続的に行って



米国ポートランド市エレクトリック・アベニュー  
（兼松提供）

おり、前年に植えた木々が育っている様子に、参加者からは「緑が増えていくことが実感できた」等の感想があった。

#### 日立ハイテクノロジーズ 淀川河川敷清掃活動

2011年11月13日、NPO法人ゴミング☆大阪が主催するゴミ拾いに、関西支店・グループ会社社員23人を含め40人以上が参加し、30袋を超えるゴミを回収した。

同法人は、住民や自治体、学校等の共同体の連携による地域の川の清掃、管理を推進しており、環境活動、地域貢献活動の一環として、2010年に引き続き、関西支店の近くを流れる淀川での活動に参加した。参加者からは、「地域におけるゴミ問題の実態を実感、認識し、有意義だった」等の感想があった。

ゴミ拾いによる美観的な側面だけでなく、ゴミを出さないようにするという意識付けとしても有効な活動と考えており、定例行事として定着させ、環境保全に対する意識高揚につなげていきたい。

#### 5. 事業活動を通じた環境貢献

##### 兼松 米国オレゴン州ポートランド市 エレクトリック・アベニュー

2012年2月29日、電気自動車（EV）充電器の実証実験事業の推進に当たり、充電器設置の除幕式を行い、運用をスタートした。本事業は、ポートランドの州立大学、電力会社、自治体が共同で推進し、市街に設置した充電器を一般開放して、利用状況データを、サステナブルな交通手段の研究や、EVや充電技術の普及促進、都市計画立案に役立てる。

兼松は、設置した充電器の利用状況データ等を研究に提供する。今後はさらに、EV普及を推進する同州、および米国西海岸を中心に、2015年末までに1,000台の充電器の設置を目標とし、許認可取得、運用、課金代行等のサービスを提供していく。